

令和6年度第2回 政策形成実践研修（短期集中研究会）

ふくしま自治研修センター政策支援部では、県内自治体等職員の政策形成能力の向上を目的として、令和6年度第2回目となる政策形成実践研修（短期集中研究会）を実施しました。

1 政策形成実践研修（短期集中研究会）とは

- (1) 短期間で、政策形成の基本プロセスを学ぶことを目的に、5人程度のグループをつくり、地域課題をテーマに事業の構築を行うもので、講義、研究活動、フィールドワークを組み合わせた実践的な研修です。
- (2) 5日間の集合研修を3回に分け、約1ヶ月の間に行います。集合研修日以外に、自主的に行う学習もあります。
- (3) モデル自治体を選定し、モデル自治体が抱える課題の中から、研究テーマを選定します。

【研修日程等】

		← 約1ヶ月間 →										
研修日	1日目		2日目			3日目		4日目		5日目		
場所	ふくしま自治研修センター（1泊2日）					現地		ふくしま自治研修センター（1泊2日）				
研究活動の流れ	モデル自治体の選定	現状の把握	目標の設定	課題の設定	事業の検討	フィールドワークの計画	自主学習 フィールドワーク (仮説検証)	自主学習	事業提言のまとめ		発表練習	発表会



講義



フィールドワーク



発表練習

2 実施状況

(1) 参加者

15名（県職員10名、市町村職員5名）

(2) 日程等

研修日		場所
1日目	令和6年10月17日（木）	ふくしま自治研修センター（1泊2日）
2日目	令和6年10月18日（金）	
3日目	令和6年11月1日（金）Cグループ	フィールドワーク（広野町役場ほか）
	令和6年11月5日（火）Aグループ	フィールドワーク（会津坂下町役場ほか）
	令和6年11月7日（木）Bグループ	フィールドワーク（棚倉町役場ほか）
4日目	令和6年11月18日（月）	ふくしま自治研修センター（1泊2日）
5日目	令和6年11月19日（火）	

(3) 研修経過

1日目・2日目

研究テーマの決定・フィールドワークの計画

15人の研修生が5人ずつ3グループに分かれ、それぞれのグループで研究対象とするモデル自治体を決め、モデル自治体の現状と課題を調べ、課題を整理して研究テーマを決めました。

次に、事業の検討を行い、現場の情報収集を行うためのフィールドワークの計画を立てました。



3日目

フィールドワーク

自分達が考えた事業の方向性が現状と合っているのか確認し、結果を事業の構築に反映させるため、各グループで、実際に現地（モデル自治体）に行き、現場を視察したり、関係者に直接話を伺いました。



広野町振興公社

4日目・5日目

事業提言のまとめ・発表練習・発表会

聞き手の視点に立ったプレゼン資料の作り方や発表の仕方を学び、発表会に向けて練習を行いました。



研修の最後に、センター所長をモデル自治体の首長に見立て、グループ毎に事業提言を行いました。



3 提案事業

【Aグループ】

モデル自治体：会津坂下町

事業名：「ばんげ」に冷やしラーメン食べさきっせ事業



「ばんげ」に冷やしラーメン食べさきっせ事業(予算1,300千円)

Aグループ

現状と課題

- ①観光の目的地が「道の駅あいづ 湯川・会津坂下(以下、道の駅)」になっている。
- ②道の駅の来場者数は年々増加する一方、坂下町内の観光客数は減少傾向

事業目的

- ①道の駅に訪れた人々を会津坂下町内に呼び込み、観光人口を増やす。
- ②「会津坂下町」の冷やしラーメンの知名度向上(会津坂下町=冷やしラーメンのまち)

事業内容

- ◎夏季及び冬季に冷やしラーメン食べ比べフェアを開催
- ①開催日・場所
 - 夏季：8月の土曜日、日曜日 in道の駅
 - 冬季：大俵引きの開催日(1月14日) in町内大俵引き会場
- ②内容
 - 全12種類のうち3種類の冷やしラーメンを1セットとして販売。購入者には、町内の冷やしラーメン店で利用できる食事券を配布。

事業効果

- ①坂下町内の観光人口増加 ②冷やしラーメンの知名度向上

【Bグループ】

モデル自治体：棚倉町

提言事業：「未来へつなぐ」ふるさと“まるごと”体験事業



「未来へつなぐ」ふるさと“まるごと”体験事業

5,031千円

Bグループ

事業目的

- ①中学生が将来の居住地としてふるさと(東白川郡の各町村)を選ぶきっかけづくりをする
- ②地域資源であるルネサンス棚倉の魅力を知る ③広域的なつながりを深める(周辺中学校、修明高校、役場)

事業概要

対象者：棚倉中学校、塙中学校、鮫川中学校、矢祭中学校の2年生全員(計251名)及び保護者等
会場：ルネサンス棚倉(1泊2日)

1日目

地域の良さを共有する
(1日目・午前)

大ホッケー大会で交流する
(1日目・午後)

お祭りイベントで感動する
(1日目・夜)

実施主体：「未来へつなぐ」ふるさと実行委員会(東白川郡の町村で組織)
財源：県サポート事業(4/5)、各町村負担金(棚倉：約40万、他3町村：20万)

事業効果

- ①中学生の定住意向増 → 人口流出に歯止め
- ②地域資源を活用 → 地域の活性化
- ③広域連携 → つながりを深める

2日目

地域の良さを体感する
(2日目)

【Cグループ】

モデル自治体：広野町

提言事業：来て、住んで、語って“ひろの”事業

